

テーマ別課題シート 基本目標1「健やかで若さあふれる元気なまち(健康福祉)」

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
安心して子どもを 育てる環境づくり の推進	保育サービスの充実		●幼稚園・保育園のあり方についての検討 幼稚園 大井幼稚園＝96名 二葉幼稚園＝94名 東野幼稚園＝38名 私立杉の子＝220名 保育園 城ヶ丘＝169名 長島＝89名 岩村＝139名 山岡＝113名 明智＝97名 他9園＝345名 私立千草＝60名 私立ルンビニー＝65名 幼稚園は、園児が少なく空き教室がある状態であり、3園の統合も考えるべき課題。 保育園の指定管理として城ヶ丘保育園が平成22年度から始まるが、検証することが重要。(メリット・デメリット) 人に関係する施設は、地元の団体や地元NPOが指定管理を受けるような視点が必要。
	学童保育の充実	●学童保育の充実 10人以上250日開設なら補助あり 保育にかける子が対象だが、それ以外の子もいるのでは？費用負担額の差は、親と支援員の話し合いにより保育内容が違いため料金が違う。(実費負担) 通年開設(大井・長島・山岡・明智・大井第2・岩村) 季節開設(恵那北・三郷・中野方・武並) 未設置(東野・飯地・吉田・串原・上矢作) ●学童保育所を全市に設置	
	児童センターの充実	○児童センターの充実	
	子育て支援の充実	●ファミリーサポートセンターのあり方 ・利用者が減少している。(原因＝制度を知らない。登録者が少ない。他人に見てほしくない。) ・ファミリーサポートセンターの活用と制度のPRが必要。 ●人口減少傾向に対応する子育て支援 親としての子育てを基本とし、地域や行政は幅広いニーズに対応する必要がある。 ・子供の健全育成と子育て中の家庭の支援を、総合的に施策展開する必要がある。 ・子育て支援の相談窓口は、子育て支援課であるが、悩んだとき気軽に相談できる仕組みが必要。 恵那市次世代育成支援行動計画(H17から26年度)22年度後期計画策定時に体系整備。恵那市少子化対策指針(見直し時期)との整合性を図る。 ●女性の社会進出に伴う保育サービスの充実{休日保育(日曜日)の実施等} ・日曜日も働く父母に限定しアンケート調査して、実態をつかむ必要がある。件数が少なければ費用対効果から、1園のみ開設。 ・城ヶ丘保育園のアンケート(利用料1日3000円程度徴収が前提)では、いつも利用する＝0%、たまに利用＝44%、利用しない＝56% 一時保育利用では、たぶん利用＝58%、利用しない＝38% ●保育園指定管理者制度導入検討委員会が、指定管理・幼保一元化等について、21年度中に方針を出す予定。	●育児休暇を取得できるような社会作り、環境づくり ●安心して産むことができる産婦人科対応・設置 産婦人科設置や助産師の活用。また、他自治体との広域対応、産婦人科医との連携などを検討する為、市民も取り込んだ委員会設置し、検討する。 ●子育て支援は多様化する一方、親が子どもを見るというのが基本。 子育てについて、すべて行政まかせで良いのか？ ●安心して産むことができる環境づくり(産婦人科等)
	母子保健の充実	○新生児訪問指導(第1子を対象全数訪問)	
障がい児支援		●障がいのある子どもと、その親への支援	

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
健康づくりの促進	全市民健康診断	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の主体的な健康づくり 市民一人当たりの医療費が増額 (H18 188 千円 H19 213 千円 H20 381 千円) 特定健康診査・特定保健指導の受診推奨しているが、受診率 30.2%は低いため、市民自ら健康管理や健康づくりに対する意識を高める必要がある。いかにして受診させるか。(例ー受診グッズ配布や受診バッチ) もう少し分かりやすく PR すべき。 早期治療から予防への意識高揚 ボランティアによる健康アドバイザーを選任する。 	
	生活習慣病の予防	○ 心疾患死亡、脳血管疾患死亡者が増加しているため、具体的な対策が必要。	
	健康づくりの拠点づくり		
	地域での健康づくり活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヘルスリーダーの養成 (検討) ● ヘルスリーダー養成の実績はないー目標達成できるか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康に対する知識を深めるような地域での取組み ストレスを発散したり、食育に関する知識を深める活動が必要。 ● 市民が仲間とともに健康づくりが出来るような環境づくりが必要 (グループ支援リーダー養成)
	健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民自らが健康を考える仕組みづくり ● ウォーキングなど健康づくりグループの支援 	
みんなで支えあう福祉のまち	地域福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 「地域福祉まちづくり推進会議 (仮称)」等の組織づくりへの支援 ● 地域福祉計画に基づく地区組織の充実と、社会福祉協議会との役割分担 	
	市民総合相談		● 市民総合窓口・相談窓口の設置

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
あんしんと生きがいのある高齢者福祉の充実	外出の支援（交通手段の確保）		● 輸送サービスなど、高齢者の外出支援の充実
	高齢者の触れ合いの場づくり		
	シニアの社会参加、生きがいづくり	● 高齢者の生きがいづくりの推進 ・シルバー人材センターの充実 就業率 UP や受注者把握に努める。 ・高齢者の知識を活用する場作り。	○シルバー人材センターの適正な運営 ●高齢化社会の到来(高齢者の活躍する場をどう作っていくか)高齢者は人生経験と知恵があり大きな力となることから、もっと社会に参与できる。
	一人暮らし高齢者の生活支援		
	福祉施設の充実		● 介護施設型、在宅介護体制の充実 ● 高齢者福祉施設のありかた。 高齢者福祉施設を拡充すべき考え方と、家族や周りがケアして在宅介護できる体制の充実の考え方がある。
	在宅介護の支援等		
地域で共に暮らせる障害者福祉の充実	施設・サービスの充実	●障がい者の把握につとめる 障がい者を把握するのに、個人情報保護法で出来ない。 ○障がい者が社会参加できる仕組みづくり ○障がい者の生活保護対策	● 聴覚障がい者に対する情報伝達の検討（CATV、FAX 利用など） 告知放送システムでは対応できない。CATV えなっこチャット 6 番で、文字放送できないか検討する必要がある。 聴覚障がい者への情報伝達を検討。FAX 設置拒否の方も。(消防へ直接送信 FAX 制度あり)
	心のバリアフリーを含めたノーマライゼーションの推進	● 障がい者への理解を深め、みんなが支えあう地域づくり	
	公共施設のバリアフリー化		
	その他	● 障がい者の雇用促進及び環境整備	● 障がい者の社会復帰事業 (脳梗塞などで退院した人たちが、3年間くらい「仮称一患者会」を通じて早く社会復帰できるような仕組みづくり) ● 住宅用火災報知器の設置の推進 (H23 年までに全家庭義務化)
地域の医療・救急体制の充実	地域医療の充実	○ 国保岩村診療所の2階を人工透析施設として整備 (H20 年度整備、H21 年度開所) ○ 医師、看護師の確保 医師確保の為、東濃地域医師確保奨学資金等貸付制度があるが、助産師までも拡大するなどの戦略が必要である。	●公立病院と診療所の密な連携による機能強化と産婦人科の開設 中核的病院と地域の診療所が、医療技術のネットワークを確立する必要がある。 (産婦人科については、安心して子供を生み育てる欄に記述あり) 産婦人科医不足に対して、助産師の活用は出来ないか？出来るように要請すべき
	保健・医療・福祉のネットワーク化	○ 公立医療機関相互の連携と機能分担を進め、医療資源、財政資源の有効活用	● 2公立病院と6診療所のありかた 人口56000人の市に2病院と6診療所。財政的に厳しい状況となる。 病院経営と医療の充実を望む声があり、相反する問題である。
	救急体制の整備		● 市民が24時間AEDを使用できる体制(現状122台設置) AED設置箇所は74箇所(H20) 今後は民間施設に設置。 (設置施設が休館で利用できない現状がある。バッテリー等機器の点検が必要) ○ ドクターヘリに対応するヘリポートの設置 ● 診療看護師(ナースプラティショナー)の検討(日本ではまだ)

テーマ別課題シート 基本目標2「豊かな自然と調和した安全なまち(生活環境)」

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
豊かな自然環境の保全と活用	山林や里山の保全・活用	○ 「恵那市の森林(もり)づくり基本計画」で出た課題の解決検討 ● 洗出原生林の保護 大船山の自然保護・活用 ● 飯地町大根山の自然保護・活用 ● 阿木川ダムの水質検査	● 自然環境保全 ・環境基本計画に基づき、施策を行う。 ・CO2削減の目標を設定する。 ● 山林の保全・活用 ・森林の荒廃を防ぐ為に間伐を促進する。間伐の作業班の充実。 ・間伐など山の手入れなどに従事する人が少ない。 ・間伐材の利用促進 ・山林の間伐材利用できる企業の育成。木材チップの活用企業の育成。 ・間伐助成の継続と山林再生 ・有害鳥獣対策・ ・針葉樹と落葉樹の混植複層林の拡大。(有害鳥獣対策に有効) ● 里や里山保全 ・耕作放棄地の解消と有効利用を図る。 ・耕作放棄地の使用貸借の円滑化。 ・容易な土地取得・・・新規参入者への配慮。 ・地域へ環境保全対策費助成・・・耕作放棄地の保全を近隣所有者が管理。 ・休耕地対策・・・休耕地を活用した特産品開発。 ● 市民による環境美化活動の推進。
	河川やダム湖の保全		● 河川活用(河川プール・・・親子で自然と親しみ遊べる場所)
	水辺環境の整備	● 豊かな自然環境の保全：親しみやすい川が欲しい、河川工事がなされ整備された反面、子供たちの親しめる川がなくなっている	● 圃場整備・河川整備で設置された管理道路を、ジョッキング、ウォーキング、サイクリング、散歩コースとする。 ● 市民のいこいの森(モンゴル村周辺)、つどいの水辺整備(矢作川・阿木川)
	自然景観の保全		● 景観の保全、もう少し具体策を、休耕地対策を ● 景観的建築物や保全している風景について表彰する仕組みを作る(地域的モデルを作り町の方向性を出す)
快適な都市環境づくり、まち並み景観整備の促進	まち並みの整備	○ 市街地や幹線道路周辺での違法な屋外広告物の問題 ● 身近に親しまれる憩いの場づくり ● 地域の特色あるまちづくりを生かしつつ、恵那市としての統一景観が必要。 ● 豊かな自然と歴史、文化を生かした、町並みや景観作りが必要。 ● 自然環境の保全	○ 環境基本計画、景観計画の具現化 ○ 地域景観計画の策定にあたっての地域住民の合意形成とまちぐるみの取組み推進 ○ リニア新幹線東濃駅の実現化に向けた道路等のインフラ整備 ● 市民の憩いの場としての機能を有する公園を、みんなの財産としての意識を高める必要がある。 ● 快適な都市環境づくり：地域の景観に対する取り組みや考え方を新規事業だけでなく、既存事業の展開においても景観的な視点で検討していく。(まちづくり交付金事業等) ● 旧恵那市の、建物や風景に対して景観賞を出し指定しているが、その後の活用方法の見直しを行い交流人口の増加を目指す。 ● 市街地での住宅改築に際して、建築確認申請の段階でブロック別のランドデザインを定めたもので指導認可することが出来ないか。 ● 施主や設計士の発想で、思い思いのデザインで洋風・和風が入り乱れて、雑然で風情に乏しい町並みになった。個性的も良いが、風格と安全性の視点が必要。 ● 伝統的建物のあるブロック(地域)は、特に留意が必要。 ● 空きや店舗の活用 ● 老朽化した建物の除却 ● 一体化した町おこし。例えば施設・建物・駐車場の一体化した活用方法を考える。
	安全な水の確保	○ 上水道、簡易水道の供給区域の拡張による水道未普及地域の早期解消 ● いつあるか分からない災害に備え、現在ある井戸水が何時でも使えるよう水質検査する様PR。	
	定住の促進		

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
<p>災害に強く、安心・安全なまちづくり</p>	<p>地域防災体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主防災組織の育成（自主防災隊の全市域での組織化） ○ 携帯メールによる市民情報ネットワークの構築 ○ 近年の異常気象による集中豪雨などの災害への対策や備えの充実 ○ 迫り来る東海・東南海地震などの自然災害の危険性への対処 ○ 防災リーダーの育成 ● 消防団の定員割れが進む中で、消防団 OB や自主防災隊でその『地域力』をバックアップする必要がある。 ● 消防団員確保・PR（女性消防団員の加入促進。現在28名） ● 地域の実情に応じた消防団拠点施設（消防センター、器具庫）の整備統合が課題 ● 消防に対する満足度低下についての検証が必要。（市長査閲のあり方など） ● 消防団 OB 等の活用（団員減少対応） ● 消防署所から遠隔地域の救命率の向上対策（笠岡地域を含めた全域） ● 市内火災発生件数（目標値＝25件。H20実績＝47件）減少への消防の役割と市民の火災予防への取り組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の防災・防犯活動の推進。 ● 安心・安全マップ作り。独居高齢者や高齢世帯、障害者等要擁護者の位置を明確化。要支援者を地区ごとに確認し、災害時のみでなく普段からのみ守りにも生かす ● 防災センターを活用して、災害に強い町をつくる。 ● 市民への啓発活動（平時の備えの強化） ● 自主防災隊の組織率を100%に近づける。まちづくり団体やまちづくり組織と連携して。 ● 自主防災隊の戦力アップが必要。訓練は実践的なものを行う必要がある。 ● 自主防災組織の活動は通年であり、PDCAを廻す事により進むものである。（防災訓練1日のみのものでない） ● 地域の実情に合わせ、実効性のある自主防災隊組織の編成が必要である。 ● 地域における防災体制の充実 ● 自主防災組織の細分化と役員の固定化で、災害に対応できる体制、整備が必要。（自治会員、消防団経験者、看護師等医療関係者などの協力で結成する。） ● 防災アドバイザー制度（防災士）などの仕組みづくりが必要 ● 初期消火対策として、屋間に消防団員がいない地域では、高齢者や女性でも消火栓の操作が出来る様訓練が必要。消火栓は簡便で安全な装置に切り替える必要がある。 ● 若い人たちはほとんど仕事に行っていて、日中は老人ばかり。健康な老人で地域を守る。 ● 阪神大震災等で最も評価された、近所・となりの人の助け合った教訓から『向こう3軒両隣り』という地域力が求められている。 ● 防災無線の移動系で避難場所から、町対策本部に連絡できる仕組みが必要。（固定系のパンザマストではデジタル化されたが、端末から中央に交信は出来ない） ● コミュニティ放送局の新設。CATVとは違う移動系や場所をとらわれず聞くことが出来る。災害時に有効。 ● 災害に強い情報通信網の整備。停電時の自家発電や蓄電池の確保。 ● 木造住宅における耐震化について家全体を行うのではなく、1室でもシェルターを作り身を守る仕組みが必要。 ● 家庭の火災報知機義務付け（平成23年度までに全世帯）。設置率状況からPRや対策が必要。 ● 地域生産、地域消費の推進。（災害時でも食料対応できる地域力の確保）
	<p>治山治水事業の推進</p>		
	<p>消防・救急体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 消防・救急体制のあり方「恵那消防署(40名)・岩村消防署(19名)・明智消防署(11名)上矢作分署(9名)」 ● 消防恵那北分署の建設(職員配置は消防専門職と一般職との混成配置で、経費の削減を図る。全国モデルとなるようなシステムを構築) ● 消火栓を誰でも作動できる訓練をしておくこと（団員の不在に備えて） ● 遠隔地域の救命率の向上 ● AEDの主要箇所への設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● AED設置を進める ● 少子高齢化を予測した消防団員の確保が必要。 ● 救急車の有料化検討
	<p>地域防犯対策の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域パトロールなどを地域の活動として始める 	
	<p>交通安全対策の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者や子供などの交通弱者を巻き込んだ事故への対策 ● 信号機の見直し 	
<p>その他</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 「猿」対策 	

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
環境衛生対策の充実	下水道等整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 水質汚濁を防ぐ上からも上下水道整備を推進する。 ● 下水道未普及地域の水洗化率を上げる施策が必要。 ● 上下水道の整備（未普及地の解消） ● 上下水道の整備は重要であるが、農村部では家と家との距離があり、工事に金がかかりすぎる為、合併浄化槽を進めるべき。 ● 公共下水道、特環、農業集落排水以外の地域は、合併浄化槽の普及促進。 	
	公害対策の推進		
	環境美化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 不法投棄防止 ● 	
	ごみの減量化・資源化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ さらなるごみの減量化、再資源化の取組み推進 ○ 一般廃棄物最終処分場の建設（建設予定地：笠置町毛呂窪、H21年度完成予定） ● 日曜リサイクル広場を恵南地区でも実施するよう支援が必要。 ● ごみの減量化、再資源化の推進。 ● 一般廃棄物の排出量の削減。 ● 公害問題や環境美化に対するの市民意識やモラルの向上を図る。 ● ごみの不法投棄対策の充実と強化 ● 不法投棄対策として、監視カメラを設置し悪質者を検挙し抑止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生ごみ削減について、生ごみ処理機やダンボールコンポストなど手軽に出来る処理方法についての学習会や情報伝達。 ● 生ごみを堆肥化できないか、検討する必要がある。 ● 循環型社会の形成 ● リサイクルの推進 ● ごみ処理施設『あおぞら』の活用
	環境衛生施設の充実		○ ごみ処理施設とし尿処理施設の統合による効率化とCO2削減
	環境にやさしいエネルギーなどの活用	<ul style="list-style-type: none"> ● バイオ肥料の活用 ● 風力、太陽光、バイオマス、取水力（小さい河川）の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 持続可能な循環型社会の形成に向けた取組み（省資源や省エネルギー化）の検討 ○ バイオマス資源を有効活用する構想の策定と実現化 ○ 住宅用太陽光発電システムの設置に対する支援の検討 ● バイオマスタウン構想の周知と実現
環境教育		<ul style="list-style-type: none"> ● 環境教育が必要 ● 幼児から年代別にモラル向上の教育を徹底する必要がある。 ● 不法投棄やポイ捨て等に対して、市民巡視で強化。 ● 川をきれいにする運動として、川の草刈。川にビニール系統のものを捨てないように徹底する。 	
身近に親しまれる憩いの場	公園・緑地の整備・保全	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域協議会の提案による地域計画に基づき、市民参画により公園の整備計画を検討 ○ まちなか多目的防災広場の再整備を検討 ○ 市民自らが積極的に公園を整備・維持管理することが必要 ● 現在ある公園の見直し ● 小さい子供を持つ親からお年寄りまで気軽に利用できる公園、緑地の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 憩いの場として里山を整備する。 ● 里山に、鳥が鳴き、蝶が舞い、昆虫が飛び、四季の花が咲き誇り、小川には魚が泳ぎ、蛍が乱舞する、ポケットパークのようなスポットを住民の手作りでつくる。地域のコミュニケーションの場とする。 ● 憩いの場として公園を作ることもよいが、作った後の管理をしっかりとやる必要がある。

テーマ別課題シート 基本目標3「快適に暮らせる便利で美しいまち(都市・交流基盤)」

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
計画的な土地利用	計画的な土地利用の推進	○ 都市計画区域外となっている旧町村の市街地については、整備や開発、保全に関する方針が定まっておらず、計画的な土地利用の規制・誘導が必要 ○ 優良農地の確保と耕作放棄防止のための対策の徹底 ・地籍調査事業の推進(特に山林) ● 都市計画区域(計画)の見直し(恵南地区にも中心となる街もあれば、工業団地もある)	
	市街地整備の推進	● 土地需要に応じた区画整理の実施	
	低・未利用地の有効活用		
	耕作放棄地	● 農地の保全と耕作放棄地問題(耕作者がいない、中山間地で条件が悪い)	● 水田と畑を分けた耕作放棄地の対策(水田には補助制度があるが、畑にはない) ● 農協と行政が連携した長期的な方針・施策
地域内外の交流を支える道路体系の強化	幹線道路整備の推進	○ 南北軸の道路体系が弱いため、国道418号、国道257号を基軸に、国・県道の整備や三河東濃地域高規格幹線道路建設を促進 ○ 国道19号の恵那・中津川間、恵那・瑞浪間の4車線化・バイパス化などの市民要望への対応 ● 国道418号の武並-飯地-八百津の整備が遅れている。 ● 国道のみでなく、地域の幹線道路網の整備が必要(県道・市道)	○ 市内地域間における移動時間の縮小(市中心部から主要集落まで移動時間30分以内を目指す) ● 市中心部から主要集落まで30分で到着できないのは申原のみ。
	生活道路整備の推進	○ 狭幅員の生活道路の拡幅、歩道、側溝などの整備	
	歩行者の安全確保の推進	● 通学路の安全対策(歩道設置等) ● 道路のバリアフリー化 ● 武並工業団地入り口等交通危険箇所への安全対策(信号・歩道設置等)	
	市の玄関口の整備	● 東西南北の市への入り口(玄関口)の整備	
公共交通の充実・強化	明智鉄道の利便性向上		○ 明智鉄道については、地域の鉄道、観光鉄道としての経営の安定化に向けた対策・支援策の充実 ● DMVの導入に向けた検討の推進 ● 公共交通(明知鉄道等)のPRとして周辺景観(菜の花)の活用
	JR中央本線の利便性向上	● 駅前広場の整備	
	バス交通の充実	○ 「恵那市バス等交通計画」に基づく計画の実行 ○ バス運賃の市内統一料金化 ● バスの運営経費が膨らんでいる	● 新しい公共交通の体制の検討(デマンド方式運行等)
	公共交通ネットワーク	○ 既存の公共交通機関のネットワーク化などによる更なる利便性の向上	
高度情報通信基盤の整備	地域情報基盤の整備	○ ケーブルテレビ加入世帯率の向上に向けたPRほかの取組み推進 ○ ブロードバンド環境の整備など、地域間における情報格差の解消 ● ケーブルテレビの受信料は適正か	
	携帯電話電波状況改善	● 携帯電話のつながらない地域がいまだにある(中山間地域のため)	

テーマ別課題シート 基本目標4「活力と創造性あふれる魅力あるまち(産業振興)」

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
にぎわいのある商業・サービス業の振興	中心市街地及び各地域の既存商店街の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来街者の減少により売り上げが著しく低下する既存の商店街に対する支援の充実 ○ 付加価値をもった飲食店や商店が求められ、消費者ニーズにあった商品やサービス提供が求められる ● 食料品や日用品を購入できる商店がない(困難)地域がある(郵便屋さんの活用を行っている事例がある) ● ガソリンスタンドのない地区への対策 ● 大型店と個人商店の関係(商店街の活性化) 	○ 商店が少ない地域においては、地域ぐるみで日用品販売の店を運営するなどの対策が必要
	空き店舗対策		
	商業・娯楽施設の集積		
新たな活力を生み出す工業の振興と新産業の育成	魅力ある企業の誘致	<ul style="list-style-type: none"> ○ 魅力ある新たな企業誘致 ○ 少子高齢化による労働力不足が叫ばれ、若手技術者の育成が求められる ● 未活用の既存工業用地(団地)の活用 ● 工業団地へのアクセスが悪い(恵南地区) ● 多様な職種を誘致すべき ● 雇用の場の確保と生活環境の向上(余暇を過ごす場所が市内にない) 	
	地場産業の育成	○ 地場産業の育成	
	新分野・ベンチャー企業の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ IT関連やベンチャー企業など新分野での産業育成 ● 大学卒業者等高学歴者の勤めたい職場がない(IT関連等) 	
農林水産業の支援・高度化	異業種企業の交流		
	農林業の担い手の育成	● 担い手、後継者、リーダーの不足	<ul style="list-style-type: none"> ● 中核農家(個人・組織)の育成 ● 農地所有者の意識改革
	農地・森林の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 獣害(イノシシ)対策 ● 生産調整問題と転作作物としての主要作物がない ● 国の施策が不安定(場当たりの) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全安心な農畜産物の地産地消の推進 ○ 農村景観の維持・保全
	農地・森林放棄地の解消	○ 耕作放棄地の再生と活用	
	農地の集約化と農作業の効率化		
	農畜産物の地産地消	○ 県営東濃牧場と市営大船牧場を活用した乳牛、肉用牛の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校給食の食材として地産地消の推進(計画的な生産) ● 農産物価格の低下 ● 地元の食材を利用したレストラン経営 ● 祭りなどでは、地元でとれないものをよそから持って来て売るのでなく、地元のもの売る
	恵那産木材の利用促進	○ 恵那産木材の流通と需要拡大を図る	○ 民有林の間伐促進
都市部との交流		<ul style="list-style-type: none"> ● 牧場を新たな交流の場(都市-農村)としての活用 ● マーケティング(販売先)の開拓 ● 遊休農地を利用した貸し農園やグリーンツーリズムなど 	
魅力ある就労環境の充実	若年層が定住できる就業の場の確保と支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 魅力ある職場の確保 ● 高学歴者が希望する職種(IT産業等)がない ● 大学へ行くと地元へ帰ってこない 	
	高齢者、障害のある人、女性の働く場の確保		
	勤労者の就業環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> ○ 魅力ある職場の確保と、市内で就業を促進するための支援 ○ 就業者が子育てしながら、安心して就業できる環境づくりが求められる 	● 非正規雇用者が多い

	善		
地域資源の連携による個性的な観光の振興	既存の観光施設の活性化・再生		● サービスの差別化 (他地域ではないものを)
	新たな観光資源等の発掘	○ 明智鉄道を活用した観光推進プロジェクトの取組みの実現化	● 鉄道駅名の変更 (サブ駅名をつけるなど) ● 駅名変更にあたっては市民公募を行ってみてはどうか
	観光ルートの整備	○ 観光客にわかりやすい観光看板の設置	● 小回りの利く鉄道・バス体系 (DMVなど)
	観光地等のPR	○ 恵那市の魅力を伝える情報発信強化	● トコトコ恵ちゃんの活用
	観光・交流イベントの活性化	○ 2011年の大正百年記念に向けたイベントの企画開催 ○ 市民の力を結集したおもてなしの向上	● さわやかウォーキング (武並駅—【徒歩】—岩村駅—【鉄道】—恵那駅) のような連携したイベント ● みのじのみりのり祭りの見直し

テーマ別課題シート 基本目標5「思いやりと文化を育む人づくりのまち(教育・文化)」

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
学校教育の充実	教育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育用パソコン機器等の計画的導入や英語指導助手の配置。 ○ 小中学校の図書室のネットワークの強化、小中学校図書の充実 ○ 中学校での食育の推進 ● 北中生徒に医師・歯科医・薬剤師で健康に関する講演を1時間程度実施(年1回、性感染症、口腔衛生、薬害など) ● いのちの大切さを学ぶ機会をもつ(大切な心とからだ、自尊感情、自己肯定感、発達段階に応じた性教育も必要だと思う) ● 学習支援員の質の向上(数の充実もちろん) ● ALTを少人数雇用するよりも、先生が日常的に英語を活かすようにすべきである ● ALTが少なくなっている ● 道徳教育の根幹は教師の品格・品性にある、道徳の授業は校長、教頭が担当すべきである ● 昔あった林間学校のようなものを復活、遠足の行事の大切さ ● 落ちこぼれをどうするか考えずに、それを生じさせない工夫をすること(始業時の黙想、何かの暗誦、正しい姿勢、立腰教育) ● 教育の目標と目的を明確にすること ● 特色ある教育の推進：小学校でも個々に異なる特色教育をすべきである ● 中央図書館と学校図書館との関わりが重要 ● 健康に関する講演を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校サポーターの導入(休み時間、総合学習、学校図書、放課後の遊び) ● 問題児よりもその他大勢の普通の子供の教育の伸長を知る目安が欲しい ● 家庭への食育の浸透(学校における食育、家庭への働きかけも)
	少子化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年々小規模化する学校の今後のあり方について検討 ○ 児童・生徒数の減少 ● 子供の減少について：財政的に大きな予算で他市以上に重点的に取り組む 	
	不審者対応など子どもの安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震など災害への備えとして、学校施設等の安全性の確保が急務 ○ 子どもが被害に遭う犯罪の増加 ● 各学校の耐震化改修 	
	問題を抱える子どものケア	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題を抱える子どもたちや配慮を要する子どもたちへのケア 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他人とうまくかかわれない子どもたちが増加し、問題行動や社会性の育成が課題となっている ● 発達障がい児の増加 ● 問題を抱える子、配慮を要する子のみでなく、その周りの子へのケアも必要 ● 保護者の不安が大きいということは、子供から聞こえる声の裏返しではないか
	幼稚園・保育所の連携 教員・保護者	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の役割・保護者の役割分担の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「認定子ども園」導入促進 ● 教職員に対する心のケア
生涯学習環境の充実	生涯学習事業の成果を実践できる仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯学習都市宣言決議と推進計画 ● 生涯学習事業の地域活動への位置づけ(学びの動機付け、成果を生かすこと) ● 生涯学習の窓口の一体化：地域公民館の利用 	
	生涯学習情報の収集と提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民三学塾「自主企画講座」の取組み ○ 地区公民館での市民講座の充実や地域づくりの推進 ○ 子育て親育ちフォーラム 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定年退職者など人材登用による学習内容の充実
	図書館の利用向上と施設充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書活動の更なる推進 ● 読書活動：読む力、読み取る力の低下、それによりコミュニケーションの未発達を感じる(携帯インターネットによるコミュニケーションの拡大があり、本離れが深刻) ● 新中央図書館に子供グループ会があり、親子で出席している(週1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民講座や図書館の充実を求める市民ニーズへの対処 ● 中央図書館の組織の一本化
	公民館・コミュニティセンターなどの公共施設の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地区公民館の改修 	
	民間施設の利用		<ul style="list-style-type: none"> ● テレビで岩村町の子育てについて、民間施設を利用してやっていたが、今後の方向として参考になった

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
人を育み、人を活かす教育	子どもの「心」の教育	○ 家庭や地域の教育機能の低下により、青少年の「心」の問題が大きな課題となっている ○ ニート、引きこもりと呼ばれる若者の増加	● たくましく生きる力をつける
	子どもの放課後の過ごし方	○ 放課後子ども教室や学童保育の拡大 ● 放課後子ども教室の推進：地域の人材の活用によって行う	
	子ども同士・子どもと大人の交流促進	○ ボランティア活動や自然体験、異世代交流の希薄化など社会性や協調性の低下も懸念 ● 自治会などの活動（清掃、草取り）などに、地域の子供も参加させる ● 地域の子どもの数が少なくなり、子供社会が成り立たなくなっている ● 中野方、飯地、笠置3地区の子供たちの交流会を実施している	
	家庭・地域の教育力の向上	○ 家庭教育支援計画の推進 ● 家庭教育学級の充実：各単Pでの工夫はされているが、例年通りという流れが多い、家庭での教育力につながるものなので大切にしたい、家庭教育学級への父親の参加（企業の従業員を対象に、家庭教育を学ぶ場を作る） ● 学校ボランティアの推進：今年度大井小ではボランティア人材登録がある、多様な分野にわたって自分ができること、教えられること毎にボランティアとして登録し、地域と学校がより密に子供の教育に取り組むかたちとなる ● どの世代にも言える支え合う、支え合える関係づくりを応援する（放課後の子供の居場所、託児） ● 家庭教育力の低下 ● 地域における小学校の位置づけ	● 発達障がい児の増加→周りの親が理解してくれない、理解してもらうための講座が必要 ● 子育てに関する会議等に子育て中の人に入ってもらい、親の意識向上と、現状把握につなげる ● 子育て中の親に子育てに関する会議に集まってもらうべき。 ● 保健・福祉・教育が連携して家庭教育を進める。
	幼稚園・保育所の連携		○ 「認定子ども園」導入促進
文化・芸術活動の振興	文化・芸術活動の広報PR	○ 市民参加型の企画・イベントの充実 ○ 各種イベントのPR・参加促進 ● 文化祭が大人向けとなっているので、子どもの作品展などを一緒に行うことが必要。 ● 子どもたちに郷土のことを知ってもらうことが重要。市の将来のため。 ● 文化振興 ● イベントの集約（数が多い）	● 催し物などをPRしていくための検討委員会が必要 ● 恵那市文化祭展示に、市内学生の展示もあわせ、世代間交流を図る ● 市民企画のイベントの推進援助 ● 市民作成の劇や音楽など（恵那市の歴史、先人などについて）
	文化・芸術施設の有効活用	○ 中山道広重美術館やひしや資料館の今後の運営方法 ○ 中山道広重美術館の健全運営化に向けた対策。展示作品の検討 ● 既に行われている演奏会などをより多く企画 ● 文化センターでの催しものをより内容の濃いものに	○ 企画運営に携わる市民サポーターの養成 ● 中山道広重美術館の学芸員が学校に出向き授業に活かさないか【学社連携】 ● 美術館の収蔵品などの客観的評価と、市民による評価との調整
	文化・芸術活動指導者・団体の育成		● 芸術活動をサポートする体制作り（サポーター養成講座など）
	(財)恵那市文化振興会の育成強化		

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
文化財の保護	郷土愛を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民に価値や内容をどのように知ってもらうかが大事。 ● 市民と価値観を共有することが大事。 ● 子ども達に郷土のことを知ってもらう。校外学習などで文化財に接する機会をもつ 	
	文化財の保護と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指定文化財や各資料館のあり方を見直すための調査を継続 ○ 岩村町町並み保存事業の推進 ○ 岩村城跡保存整備事業の推進（国史跡化） ○ 重要文化的景観保存対策（坂折の棚田） ○ 正家廃寺整備基本構想策定 ○ 中山道国史跡指定申請（西行塚・姫御殿跡等） ● 「正家廃寺」「岩村城」「大井宿」の整備を早く進めていくべき。 ● 中山道大井宿を意識した活用・整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内観光ルートの設定による観光資源（文化財）の有効活用 ● 中山道広重美術館の学芸員が学校に出向き授業に活かさないか【学社連携】 ● 古民家がなくなる前に保存していくための手立てが必要。 ● 市民と行政の役割分担のあり方、価値観の共有 ● 知新館跡の保全と、「新・知新館」の整備
	伝統文化の保存・育成	○ 無形文化財の保存・継承に対する継続支援	● まちづくり事業における地域文化の位置づけ
	伝統芸能活動後継者の育成	● 人材の確保、後継者の育成	
スポーツ活動の振興	総合型地域スポーツクラブの設立・育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型地域スポーツクラブの設立・育成 ● 総合型スポーツクラブが、地域単位となっていることが、使いづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のまちづくり組織との協調 ● 総合型スポーツクラブの運営について、(5年間で補助金がなくなることを踏まえ)地域のまちづくりとの関わり方が課題である。
	地域主体のスポーツ活動の推進	● 地域の運動会の活性化が必要	● マラソン大会の一本化が必要ではないか。ただし、地域振興に結びつくものであれば2つでも良い。
	体育施設・設備の有効利用		
	県営スケート場の有効活用	○ 県営スケート場の利用促進。スケート場の利用人口（冬季、夏季）の拡大。	
	体育振興施策の再構築	○スポーツ振興計画の策定・推進（H22策定予定）	
	平成24年国体への対応		<ul style="list-style-type: none"> ○ H24年度に岐阜国体弓道競技会場ほかに内定し、施設配置計画の作成など検討（冬季スケートも） ● 後期計画で、国体開催種目（弓道、スケート）を掲載するべきである。 ● 国体に対する市民気運の向上
	健康スポーツの促進		<ul style="list-style-type: none"> ● 健康増進のため、世代（年代）別の恵那体操を作る。 ● 健康度チェックのランキング制度の導入 ● スポーツに対する市民意識の醸成
【教育・文化】分野に関することで上記施策に区分できないもの			<ul style="list-style-type: none"> ● 中高生に総合計画について意見を聞く（恵那市の将来を担うのは彼らだから、参加する権利があるのでは） ● 教育委員会にこの会議の内容を正しく伝わるようお願いしたい

テーマ別課題シート 基本目標6「健全で心の通った協働のまち(市民参画)」

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
市民参画による協働のまちづくり	市民参画の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民提案型協働事業の推進 ○ 行政提案型協働事業の推進 ○ まちづくり市民活動助成事業のあり方(見直しも含めた検討が必要) ○ 地域振興基金の補助金の見直し ○ まちづくり活動への参加促進 ● 多様なまちづくり活動が多地域で行われるには ● 役割分担=参画、役割の洗い出しからスタートすべき ● まちづくり市民活動助成事業の見直し必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域計画(見直し)の促進 ○ 地域活動への職員の参加促進
	まちづくりを担う人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治区にまちづくり担当が必要ではないか ● 公民館活動で「子育てサポーター」や「認知症サポーター」などの講座を行っているが、受講生が受講後に地域の活動に参加できていない。⇒中間支援組織が仲介役をすること。 	● 楽しいボランティアの活動ができる、していただける方法
	まちづくり活動の拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中間支援組織の育成・強化 ○ 市民協会が中間支援組織として機能していない ● 市民協会：中間支援組織として情報収集と発信 ● 市民協会とまちづくり推進課は同じような任務 	● 地域の小単位である各自治会ごとの市民活動の掘り起こし
	広報広聴活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティア情報専用ホームページの充実や地域自治体独自のホームページの作成支援 ○ 市民への情報提供の充実 ● 市民に情報が伝わる仕組みの再検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働のまちづくりについて具体的な伝達方法が必要=人材、ノウハウ、広報 ● 市からの情報など：わかりやすく、市民が理解できるように伝えて欲しい
	協働意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働に対する職員の意識改革(市民も含めて) ● 市職員と市民との考え方のズレ 	
男女共同参画の推進	地域、学校、企業、家庭それぞれの男女共同参画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 男女共同参画に対する啓発(正しい理解) ○ 市民との協働による推進 ○ プランの進行体制がない ○ 各種委員会の女性割合が目標値に未達成 ○ 男女の意識改革が必要 ● 男女共同参画に対する意識の醸成に対する具体策 ● 労若男女の混成団体での市民活動を進める方法 	○ 高齢化社会の対応としての男性の家庭内自立や生きがい対策
	恵那市次世代育成支援行動計画との連携		○ 少子化にともなう子育て支援や命の大切さの学習
	ワークライフバランスの実現	○ 家庭と仕事の両立ができない働き方	● ワークライフバランスの推進
国際・都市・地域間交流の推進	国際交流の活発化		
	国際交流協会の充実		
	都市間交流の活発化		
	地域間交流の活発化		<ul style="list-style-type: none"> ● 市民レベルで都市(地域)間交流がもっと活発にできる取り組み ● 明智鉄道を利用して市内の地域間交流を増やす ● 市内での地域間交流が出来るようにし、各地域の活動や課題を共通理解することが大事。 ● 市で市内の地域間交流を取り持つ専門の部署(担当者)の配置が必要。
	多文化共生の推進		<ul style="list-style-type: none"> ● 在住外国人との交流の場づくり(一般市民とのかかわりランドデザイン) ● 外国人の方々がメインになっての行事等や発表できる場づくり

施策	課題	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
地域コミュニティ活動の充実	コミュニティ組織の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 減少の一途にある自治会加入世帯率の拡大に向けた対策 ● 地域での助け合いの土壌が希薄化 ● 自治会未加入者の増加 ● 自治会加入において、加入負担金が加入の妨げとなっている。 ● 自治会活動等への住民の積極的な参加、参画 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 13 地域合同の活動発表会や地域交流を通じて協働の考え方や新たな公について考える機会を確保し、より地域にあった事業の推進を図る ● 急速な核家族化によるコミュニティの希薄化 ● 急激な核家族化により地域コミュニティに対する意識が希薄化している。 ● 子どもからお年寄りまでが安心して暮らせる地域子コミュニティが必要。(子どもの安全や独居の不安などに対して) ● 自治会活動で経済活動を行うようにし、自主財源を確保できるようにならないか。 ● 地域間交流、住民参加のノウハウや情報提供の専門家を数名育成する
	コミュニティ活動の拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 自由に使うことができるコミュニティ活動の拠点が無い。(特に大井町) ● 地域集会施設を自由に使えるようにできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の集会所を老若男女でもっと利用する
時代に対応した行財政基盤の確立	行政のスリム化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国・県・周辺都市や関係都市との連携を強化し、効率的な行政経営を図る ○ 市民ニーズにあった行政サービスの一層の充実 ○ コスト意識を徹底したムダのない財政基盤の確立 ● 将来の恵那市の財政が心配 	<ul style="list-style-type: none"> ○ PDCAマネジメントサイクルを着実に実行し、経営理念の向上を図る ● 経常収支比率が高い。(行財政改革が計画通り進んでいない) ● 負担金のあり方(水道分担金など)、財産区の問題
	事務事業の見直し		<ul style="list-style-type: none"> ● ワンストップサービスの実施
	施設の有効利用		
	市職員の意識改革	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の意識改革と行政能力の向上 ● 出先機関、外郭団体の意識改革が必要(例：市民への対応など) ● 出先機関のサービスの向上がみえない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市役所の人員配置の適正化(特に恵南振興事務所)
	情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報公開の充実(議会、行政) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちづくりの目標と経営状況の公開 ● 情報公開の充実 特に議会の各種委員会の情報公開 ● 市の財政状況について、より市民に分かりやすく伝える。(協働を進める上においても)
申請手続き			<ul style="list-style-type: none"> ● インターネットによる各種申請
【市民参画】分野に関する上で上記施策に区分できないもの			<ul style="list-style-type: none"> ● ソフト事業などは、計画に盛り込んでも達成状況が分かりづらいものの進行管理をどうするか。 ● 子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域に

テーマ別課題シート 「人口減少対策」

区分	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
少子化対策	<p>子育て支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 乳幼児の遊び場の充実（岩村町などへの開設） ○ 新生児訪問の全数訪問に向けた新たな制度化 ○ ファミリーサポートセンター事業の利用拡大 ● 子育て中の方が働きやすい会社の設立 ● 患那市民病院に病時保育室を作っていたきたい ● 若者が子育てをしやすい地域に（教育力を高めること） ● ママさん同士のコミュニケーションの場を多くつくる ● ファミリーサポート、緊急サポートの利用料金を患那市で補助 <p>学童保育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後児童クラブ未設置校区の解消 ● 学童保育：年収の低い人のお子さんは低料金もしくは無料にしたらどうか ● 放課後児童クラブの10人以下地区への補助（未設置校区を解消するため） <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若者が未来の夢を持てる独自の対策 ● すべてマイナス要因ばかりではない。全国的な傾向なので逆手に取った施策を考えたい（人口減少後の施策を） ● 患那市ならではの特色ある教育を（子どもを育てたい街 患那市） ● 患那市独自の3世代同居・近居に対する支援 	<p>産科・小児科（医療）の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 周産期医療への不安をなくすための安心して子どもを産むことができる医療体制の充実 ● 産科がない市は近くでは患那市だけなので子どもを産む環境が必要 ● どんな出産ケースでも安心できる体制づくり（上の子がいる、病院から遠い、里帰り、などの不安） ● 安心して受診できる病院、産科、時間外の内科などが無い ● 成年層と老人層のトリアージなど緊急性に応じた対応 ● 産科・小児科の周知（マップづくり） <p>ニーズに対応した保育サービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 共働き世帯の保育ニーズへの対応 <p>結婚対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 男性への結婚教育（魅力的な男性の育成） ● 企業間の若者の交流の促進 ● 若者に魅力あるスポット（デートコース）があれば
長寿命化対策	<p>健康づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特定健診の受診PR、ヘルスリーダーの養成 ● 地域における住民主体の体操が大切 ● 散歩を声かけあって地域住民主導で行う ● 地域内における笑うことの大切さ ● 健康対策カルチャー ● スポーツする場所を多くつくる、活動しやすい状況をつくるのが大事 <p>一人暮らし高齢者の生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 老人が1人でも安心して暮らせるケアハウスづくり（空き家の利用） <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者から若者まで、相互扶助の仕組みを（地域ポイント制＝エコマネー等を活用） ● 平均寿命が短くなっていく ● 高齢者と同居し介護を行っても社会的に名誉がない、手助けが足りない、介護者への支援も必要 	<p>交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「患南地域にみられる地元に住みたい人の低下」から地域間の枠を超えた患那市という共通の郷土愛を持つための交流→生きがい→頼りにされる <p>ファミサポの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 車運転免許返納したいが足がないと不便で返納できない ● ファミサポ、キンサポを生活扶助という面から、仕事の内容を考え、方向を変えていく必要あり <p>健診</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 健診を健康保険の加入義務にする ● 基本健診は人間ドッグにすべき <p>健康づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人の健康状態にあった健康づくりの機会・場所の充実 ○ 総合的な食育の推進
魅力づくり対策	<p>歴史・自然</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の誇れる場所づくり（歴史的、自然的） ● 今後若者による地域の資源の掘り起こしを（自然、酪農・田園、古道、ロッククライミングなど） <p>農村景観</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 街並みだけでなく農村景観を保持していくための予算もぜひお願いしたい <p>景観づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 景観計画の具体的な検討 ○ JR患那駅前広場の実施設計 <p>地域のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域のまちづくりの推進、自分たちのまちは自分たちできれいにする意識づくり <p>特産品・患那ブランド</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特産品や患那ブランドのPR・充実 <p>他都市との差別化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他都市にはない魅力づくり、政策を実践（「こんなこと無理」と思われるようなこと） ○ 患那市全体を公園化 	<p>滞在型、体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長期滞在型農業体験事業、空地・空き家の活用 <p>生活が生む風景</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光の振興という施策は本当に必要か。生活が風景を生み出す→結果として魅力ある観光地に <p>PRの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 患那市の住みやすさをPR（数値的に示せないか？可処分所得、可処分時間、仲間の数など） ● 市街地の良さをアピール ● 農産物のブランド化。全国への発信ができるくらいにして雇用も増やせると良い ● あこがれの田舎暮らしをPR（もっと大事にしよう、助けてあげようという意識） ● 歴史的価値を売りにした街全体でのアピールで（外観は古く、中は住みやすい住宅など） <p>街並み・空家活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 魅力ある景観形成や歴史的風致の維持・向上 ○ 空き家の活用による定住対策 ● 防犯上悪いし、街並みを保全するためにも空家を少なくする必要があるが、住むようになるには相当な費用がかかるので、水まわりだけでも治す費用を患那市が出していただきたい ● 街並みの保全・整備は良いが、日曜にはせめて遊歩道化にしないとお金をかけた意味がない ● 景観整備にかかるお金はそこそこにし、空家を定住用にするとき景観にあわせた修理補助をする <p>駅前活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中心市街地や既存商店街の活性化対策の取組み ● 駅前商店街は、高齢者住宅群に修理、補助。にぎわい復活は無理では

区分	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
雇用対策	<p>地場産業の低下</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市内企業に対する認識を深める ● 地場産業の低落化 <p>起業支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 起業家への支援 <p>魅力ある働き場</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 魅力ある企業の誘致 ● 何が魅力か？(①企業の名前、プライド、②給与、③休み、④働きがい、やっている中身)④を高める <p>農林業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産調整や耕作放棄地などへの対応 ○ 恵那の森林づくり基本計画にある課題解決 	<p>新産業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新産業は自然利用のエネルギー産業(バイオマス、水力発電) ● 新しい産業分野とのミスマッチが起きているのでは ● リペアリング産業 ● 地産地消を積極的に <p>農林業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 若年層の就農対策 ○ 限界集落の集落維持の支援や耕作放棄地の活用、集落の再編 ● 農業政策の見直し(クラインガルデン、グリーンツーリズム) ● 勤め先の確保に限らず生活していける生活費を稼ぐ手段の確保→農林業の活用 <p>コーディネーター・地域内</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 経済的支援：自立安定した雇用が必要・契約社員、パートなどの立場の人の地位向上 ● 働きたい人と働く人を求める人とのコーディネート ● 大きな工場誘致はもう古い、地域内の企業の雇用対策をもっと取り組まなければいけない ○ 市内企業が求めている人材の育成・確保 <p>不況の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自動車産業の低迷
定住対策、その他	<p>空き家対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空き家対策によるデータ整備(どこに、誰の家が、どんな状態、どんな大きさで、借りる条件は) ● 空き家仲介・窓口の体制づくり(地域移住受け入れ協議会の設置など) <p>生活交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者が一人でも暮らせるように生活交通手段を確保 <p>UIJターン</p> <ul style="list-style-type: none"> ● UIJターン希望者の受け入れ支援 ● 団塊世代の誘引 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若者と高齢者との価値観について ● 学校の環境、あれた教室 ● 地価の低下が必要 ● 生活コストの低下が必要 ● 地域の風習(消防団など)に対する理解・PR 	<p>若者の住居対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 転出者対策(一人暮らしの方の転出対策、一人で暮らせるまちづくり) ● 若い人が恵那に住めるよう高山のような家賃補助を行ったらどうか <p>同居の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 核家族化による市民ニーズの増大→三世帯家族化奨励 ● 三世帯世帯への支援策(同居・近居の促進、近居住宅建築補助) <p>UIJターン</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大学へ行って仕事は市外へということが多くなっているため、定住するように学費(奨学金)を少し支援してあげる代わりに地元へ戻るようにできないか ● 大学進学への奨学金制度を設け、恵那市へUIターン就職した場合に返済を免除 ● 新しい他地区からの入居者に助成金、結婚して町に住む人に助成金 <p>地元就業に対する教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中学・高校における恵那市の企業を知ってもらうための教育を充実 ● 地元企業との連携、地元高校との連携の強化 <p>不動産会社との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 宅地開発について、市として土地は確保できないので、民間にお願いをして他市の人達に恵那を紹介してのらう(不動産会社への支援) <p>税金</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市民税を他市より安くする

テーマ別課題シート 「長期財政計画」

区分	積み残し課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見	新規発生課題 ○：前期計画の評価・総括 ●：ワーキング会議の意見
社会情勢の変化など		<p>社会情勢等</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少。人口が減ると普通交付税も市民税も減少する。 ● 電源立地交付金も10年間で終わる予定。 <p>合併による国の財政支援の終了</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 合併10年後より合併に伴う地方交付税の特例が終了する。交付税額が減少していくことに留意する必要がある。今の試算では22~23億円程度減少する見込み
歳入を増やす(確保する)	<p>人口対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定住促進や子育て支援、企業誘致など、前期計画からの継続的な取り組み <p>税収入・税外収入の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 税の滞納が多いことに対する収納率の向上(滞納金20年度末約9億8千万円) <p>産業振興、企業誘致による新たな財源の確保</p> <p>(1) 商業・サービス業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 来街者の減少により売上げが著しく低下する既存の商店街に対する支援の充実 <p>(2) 工業の振興と新産業の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 魅力ある新たな企業誘致 ○ IT関連やベンチャー企業など新分野での産業育成 ○ 地場産業の育成 <p>(3) 個性的な観光の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 恵那市の魅力を伝える情報発信強化 ○ 市民の力を結集したおもてなしの向上 ○ 明智鉄道を活用した観光推進プロジェクトの取組みの実現化 ○ 2011年の大正百年記念に向けたイベントの企画開催 ○ 観光客にわかりやすい観光看板の設置 	<p>人口対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 財政規模は人口減も関連してくる。一人減ると交付税が10万円減る。1000人違うと1億円違ってくる ● 恵那市に転入してきた要因(恵那市の魅力)を把握し定住対策に反映する、そのための窓口整備 ● 交流人口の拡大、地域資源の活用(例えば、明知鉄道) ● 住宅の売り方に工夫(サニーハイツ花の木をエコ住宅として売り出す) ● 定住促進の事業をもっとPRする必要がある。市民みんなで広げていく。 ● 人口55,000人を達成できるかどうかで、財政計画に大きく影響する。 <p>税収入・税外収入の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自主財源(市税、交付税以外)の確保が課題 ● 都市計画税、水源税など、新たな負担の検討 ● ごみ袋、施設使用料などの見直しなども検討したらどうか ● ふるさと納税(寄付金)の活用 <p>産業振興、企業誘致などによる新たな財源の確保</p> <p>(1) 商業・サービス業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 商業地域、商店街の活力の低下。 ○ 魅力ある店舗の不足 ○ 商店が少ない地域においては、地域ぐるみで日用品販売の店を運営するなどの対策が必要 <p>(2) 工業の振興と新産業の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ H20秋以降のサムプライム問題を発端とした世界不況、国内における自動車産業をはじめとする経済不況 ○ 企業立地環境、企業支援体制の不足 ● 第3期テクノパークにおける企業誘致 <p>(3) 個性的な観光の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ひしや資料館などをお金を生む施設にできないか(物販や喫茶店など) ● スケート場の活用(土産物屋による収入増、H24国体を契機とした全国発信) <p>交通対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2025年にJRリニア開通。1県1駅。東濃の中でどう誘致を凶っていくか ● リニアの車両基地だけでもできれば、固定資産税だけでも大きい ● 恵那に2つ駅がある便利さをPR
歳出を減らす(抑制する)	<p>行財政改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人口などに見合った職員、議員数の削減(人件費の削減) ● 指定管理者制度の活用 ● 公共施設の統廃合による経常経費の削減(美術館、ひしや資料館、ゴミ処理施設や消防署支所など複数ある施設の見直し) ● 振興事務所職員数の適正化 ● 補助金の適正化と見直し 	<p>行財政改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 行政評価制度が本格稼働し、市民意識調査や行政評価委員会の取組みも浸透しつつあることが伺える ○ 市長の姿勢でも、PDCAマネジメントサイクルの着実な実行による経営理念の向上、コスト意識を徹底したムダのない施策推進の必要性が示されている ● 協働による市民サービスの確保(中野方の送迎サービスなど)
財政状況の公表と共有化	<p>財政状況・見込みの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 財政シミュレーション(3年から5年の見通し) 	<p>財政に関する市民コンセンサスの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 財政に関する情報が市民に十分に周知されていない。わかりにくい。 ○ 市長の姿勢でも、まちづくりの目標と経営状況の公開の必要性が示されている ● 合併特例債で何をやっているのかが市民に見えていない。見てもわからないのかもしれない。 ● 国の制度などが変わると見通しも変わる。10年の財政計画を作成することはできるが、政権交代や制度改正で見直しは変わる。そうした前提条件を明記して、毎年見直しをしていく必要がある。 ● 財政状況については、分かりやすい情報提供を行い、市民に十分認識してもらう必要がある